

2022 年度日本語教育学会春季大会 一般公開プログラム 開催報告
日本語から広がるライフキャリア形成 –世界を、日本語と生きる–

主催：公益社団法人日本語教育学会
企画：調査研究推進委員会
助成：一般社団法人尚友倶楽部
日時：2022 年 5 月 21 日（土）10:00-12:00
参加者：461 人



日本語教育学会は、「人をつなぎ、社会をつくる」ことを使命とする学会です。

今回のプログラムは、日本語教育関係者のみならず、広く一般社会の方々に対し、日本国内、あるいは世界各地で日本語を使って活躍している登壇者のディスカッションを通して、「日本語学習の先にあるもの」を示すために企画されました。

登壇者は五十音順に、イスウォロ・アグネスティラルシー氏（インドネシア出身、千葉在住）、チャダ・アディティ氏（インド出身・在住）、トランボエフ・ウミドジョン氏（ウズベキスタン出身・在住）、ポーンピルン・キットソムジュート氏（タイ出身・在住）、グレコ・ジュリア氏（イタリア出身、東京在住）、ベリフ・メスフィン氏（エチオピア出身、仙台在住）の 6 名でした。

今回のテーマである「ライフキャリア」とは、仕事のみならず、人生の全ての活動を包括します。日本語がその人の生涯にかかわるキャリアを形成していることを意味することから、「日本語との出会いや学習する過程での葛藤」「日本語と職業観」について聞くために、「日本語の勉強につまずいてあきらめそうになったことはありますか」「日本語を学習したことによって、母語に対する印象は変わりましたか」「日本語を勉強し始めていた時に考えていた職業観と今の職業観は違いますか」という 3 つの質問を用意しました。ライブディスカッションは司会の丸山陽子氏のもとで順調に展開され、視聴者は最大 461 名にも上り、多くの質問も寄せられました。

開催後のアンケート（回答数 158）では、内容について 5 段階評価のうち、「大変よかった」が 45.6%、「よかった」が 34.2%で、合計で 80%近い肯定的な評価が得られました。自由記述部分でも、「日本語教育が人をつなぎ社会をつくる分野であることを肌で感じるができる豊かな時間となりました」「まさに一般公開プログラムにふさわしい企画だったと思う」というような肯定的な感想、意見が多く集まりました。なお、話題が職業よりも日本語学習に偏っているのではないかという感想もあり、「ライフキャリア」の説明が不足していたことは反省すべき点となりました。

本プログラムの円滑な実施のために、一般公開プログラム企画運営担当一同は、司会者とともに登壇者との事前インタビュー、リハーサルを複数回重ねてきました。当日は機材のトラブルもなくディスカッションは順調に進みましたが、時に本題からそれる場面もあり、ライブディスカッションの難しさを痛感することもありました。

今回の反省点を踏まえ、今後よりよいプログラムを届けられるように尽力していきたいと思えます。

以上